

初期研修プログラム

診療科名： 小 児 科

必ず習得するアウトカム

1. 新生児期～思春期までの小児の成長・発達に応じた診察・診断・治療ができる。
2. 小児の主な急性疾患（発熱, 痙攣, 喘息発作, 腹痛, 虐待など）の初期対応ができる。
3. 予防接種や健診をとおして小児保健を理解し、適切な指導ができる。

研修目的

小児は大人のミニチュアではなく、常に成長・発達している。初期研修では、この成人医療との根本的な違いを理解し、小児のプライマリ・ケアの習得を目標とする。

研修目標

◇ 一般目標

1. 小児疾患の診察治療と小児保健の基本的知識・技術を習得する。
2. 保護者から正しく問診をとることができる。

◇ 行動目標

1. 新生児期～思春期までの“Common diseases”の基本的知識を身につける。
2. 1 の診察・治療を行うための基本的技術（採血や点滴など）を習得する。
3. 1 と「見逃すと重篤化する疾患」との鑑別診断能力を習得する。
4. 適切な治療方針を立てることができる。
5. 新生児の一般管理ができる。
6. 予防接種・乳幼児健診を正しい方法で実施できる。

◇ 研修期間中に経験可能な疾患・疾病、および手技

1. 肺炎や胃腸炎、熱性けいれんなど **Common diseases** の経験 10 例以上
2. 川崎病など比較的 **Common diseases** の経験 3-5 例
3. 疾患と無害性心雑音や検尿異常などとの鑑別診断
4. 1-3 を診察・診断するための基本的技能 (X 線読影, 超音波検査など)
5. 1-3 を治療するための基本的知識・技術 (輸液や抗菌薬の使用法, 点滴などの処置)
6. 小児救急疾患の基本的な知識と技術
7. 予防接種の手技と健診の手順

研修方略

1. 指導医のもとで「小児医療チーム」の一員として、積極的に診療に参加する。
2. POMR に則った診療録を作成する。特に **assessment, plan** を重視し常に指導をうける。
3. 入院患者の診療が優先だが、積極的に外来で症例を経験し知識・技術を習得する。

4. 許可が得られた場合、積極的に予防接種と健診を実施する。
5. 病棟回診で担当症例のプレゼンテーションを行う。
6. 入院・外来のカンファレンスで症例呈示を学会発表に準じた方法で行う。
7. 経験症例を指導の下、学会発表する。

研修評価

1. 診療録のチェックと指導を毎日うける。
2. 診察法・診断能力・治療手技の指導を適宜受ける。
3. 回診・カンファレンスでのプレゼンテーションの指導を適宜受ける。
4. 診療態度など 1-3 に属さない事項について 360 度評価をうける。具体的には
コメディカル、任意の患者からのアンケート結果に基づく指導を指導責任者から受ける。

週間予定表

	午前	午後	夕方
月	一般外来 病棟患者の診療	専門外来（アレルギー・神経・腎）	オンコール制急患診療
火	一般外来 病棟患者の診療	専門外来（アレルギー・予防接種）	オンコール制急患診療
水	一般外来 病棟患者の診療	症例カンファレンス&抄読会 専門外来（予防接種・健診）	オンコール制急患診療
木	一般外来 病棟患者の診療	専門外来（心臓・健診）	オンコール制急患診療
金	一般外来 病棟患者の診療	専門外来（アレルギー・神経）	オンコール制急患診療

（表は、適宜加除修正ください。）

指導責任者および指導医

指導責任者： 森本 哲司

指導医： 福與 なおみ

〃： 北沢 博

〃： 川合 英一郎

〃： 市川 由香里

学生（4~6年生）や他科研修中研修医のカンファレンスの参加の可否

参加可 ・ 参加不可

研修医発表会、学会発表に対する指導体制

日本小児科学会指導医による発表前の予行演習を受けてからの発表となる。

Evidence based medicine に則り医学的考察を重視した発表形式を習得させる。

同時期に受け入れ可能研修医数（1クール：1~3か月）

2名/1クール